

中医診断学ノート

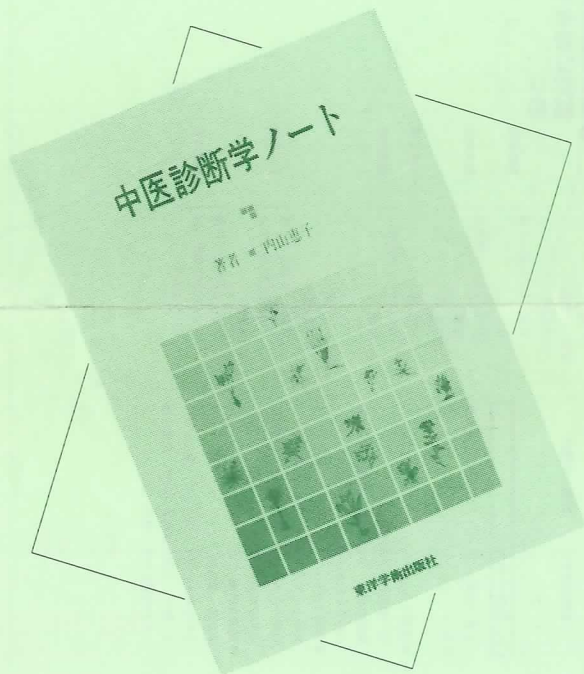
内山 恵子著

B5判 カバー装 180頁 定価3,300円(¥260円)

視覚的に中医学を理解できる画期的な中医ハンドブック

南京中医学院に留学した著者が、中国人本科生とともに受講した「中医診断学」講義の内容を、初学者の立場から理解しやすくするために、基礎理論の解説も盛り込んで、図形的に整理した斬新なノート。

- チャート式図形化を実現し、視覚的に中医学概念の特徴を理解させる。
- テキストの翻訳では理解しにくい中医学基礎の内容を、平易な文章で要領よく、かつ正確に整理・解説する。
- 中医学全体の流れを一目瞭然に、俯瞰的に理解できる工夫。
- 比較、鑑別、要点の整理に重点をおき、鑑別のポイントの項目を設ける。
- 見やすい見出しと項目／明快な病理機序の記述／代表的な症状を囲み罫で特記する／ゆとりのある余白。本文の脇に注を付ける。
- 充実した索引（用語索引、方剤索引）——中医学用語辞典の内容をもつ。



本書は、発行以来大変ご好評をいただいているテキストです。中医学を学ぶほとんどの方々がすでにお読みいただいております。

中医学は膨大な内容をもち、全体像を理解するには相当の努力と忍耐が必要ですが、本書は中医学の基礎理論と診断学の内容が、図形を用いて合理的に整理されていますので、中医学全体のアウトラインを知っていただくには大変便利な「整理ノート」といえます。また、個々の具体的な中医学用語の概念も図形を通じて理解することができます。初めて中医学を学ばれる方はもちろん、基礎理論書を読んだことのあるの方々にとっても、便利なサブ・テキストになると思います。ぜひとも座右に置いて事あるごとに目を通していただきたいと存じます。

東洋学術出版社

〒272 千葉県市川市宮久保3-1-5

電話(0473)71-8337 振替東京 4-99834 FAX (0473)72-7060

● 全書を四診篇と弁証篇に分け、組方に変化をつけた

● 見やすい証の項目

組見本

四診篇 (二段組, 全35頁)

見やすい見出し

できるだけ図型化を心がけた

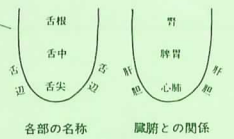
見やすくするため複雑な説明は極力避けた

III. 舌を望る

1. 舌と臓腑の関係

舌は経絡によって直接、または間接的に臓腑と結びついている。一方、臓腑の精気は経絡を伝って舌を滋養している。このため、舌の状態によって臓腑の病変を知ることができ。

● 舌の各部と臓腑との関係



2. 舌診の内容

舌質(舌体ともいう)と舌苔の変化を観察する。

- 舌質とは……舌の筋肉、脈絡組織をいう。臓腑の虚実・気血の盛衰・外感熱病営血分の病変を反映する。
- 舌苔とは……舌面上に附着している苔状の物質をいう。病邪の深浅・病性・胃気の存亡・外感熱病衛気分の病変を反映する。
- 正常な舌象
淡紅舌・薄白苔
舌体は程よい厚さと大きさで、柔らかく、よく動く。舌質は淡紅色で鮮明。白色の薄い苔が均質につき、過度に潤う。

3. 舌質

舌質の色および舌体の形と状態、動きを観察する。

(1) 舌色

- 淡白——虚証、寒証
- 紅——熱証
- 絳——熱盛
- 紫——熱証、寒証、瘀血証

* 紫：深紅色

- 淡白舌……虚証、寒証
・舌体がやせている——気血両虚
- ・舌体がぼてぼてしている(胖嫩)——陽気不足

- 紅舌……熱証(外感熱病)
・舌尖、舌辺が紅い+薄白苔——風熱表証
- ・舌全体が紅い+黄厚苔、乾燥——裏実熱証
- (内傷雜病)
・舌尖が紅い——心火上炎
- ・舌全体が紅い+少苔、乾燥——陰虛内熱

- 絳舌……熱盛(外感熱病)
・絳舌→舌面にとげ状の隆起(芒刺)ができる——熱入営血
- (内傷雜病)
・絳舌、少苔あるいは無苔→舌面に亀裂(裂紋)ができる——陰虛火旺

● 鑑別のまとめ

● 証候の比較、鑑別に重点をおく

● 証候名

弁証篇 (一段組, 全125頁)

4. 肝陽上亢

【病因病機】
肝腎陰虛
ストレス→気鬱化火→肝陰損傷 } 陰が陽を抑制できない→肝陽上亢(陰虛陽亢)

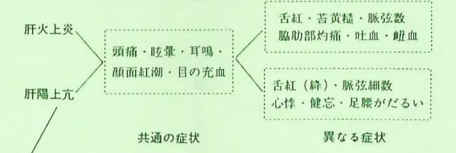
【症状】
急躁・怒りっぽい・頭痛(振痛)・眩暈・耳鳴・顔面紅潮・目が充血・不眠・多夢・心悸・健忘・足腰がだるい・舌紅(絳)・脈弦細数

【分析】

急躁、怒りっぽい	肝陽が亢逆するため疏泄の機能(精神面)が失調
頭痛、眩暈、耳鳴、顔面紅潮、目が充血	肝腎陰虛により肝陽が亢逆し、上部を乱す
不眠、多夢、心悸、健忘*	陰虛により心神が滋養されない
足腰がだるい*	肝腎陰虛により筋骨が滋養されない
舌紅(絳)、脈弦細数	肝腎陰虛による肝陽亢盛を表わす

【治法】【方薬】
滋陰平肝潜陽：杞菊地黄丸⑨、天麻钩藤飲⑩

★鑑別のポイント——肝火上炎証と肝陽上亢証の比較
肝火上炎は実熱証、肝陽上亢は陰虛陽亢証に属す。両証に共通する症状と異なる症状は以下の通り。



● 病理機序なるべく文章による説明をさせた

● 代表的な症状

● 病理のメカニズムを説明する

*心悸、健忘、足腰のなるきは、肝火上炎証にはみられない症状。

● 他の証候との比較

● 図形的に比較する

● ゆとりのある余白本文の脇に注をつける